

# 令和2年度 事業報告書

(令和2年4月1日～令和3年3月31日)

公益社団法人 いちよしの樹



# 目 次

I. 事業概況	1
II. 事業実績	
1. 精神障害者に対して、救急・急性期治療等の医療を提供するとともに、リハビリテーションの実施をはじめとする各種社会復帰のための支援を行うことで、公衆衛生の向上を図る事業	2
○ 診療実績 メンタルホスピタル鹿児島	
○ 診療実績 メンタルホスピタル鹿屋	
○ 精神科領域診療業務委託実績	
○ 患者サポートの充実を目的とする各種相談実績	
○ 鹿児島県精神科救急システム当番病院実績	
○ 鹿児島県精神科医療電話相談窓口実績	
○ 精神科地域移行実施加算による退院者実績	
○ 訪問看護実績	
○ 共同生活援助実績	
○ 就労継続支援事業実績	
○ リハビリテーション実績	
○ デイケア・デイナイトケア等実績	
2. 生活困窮者に対して、無料又は低額な診療を提供することで、公衆衛生の向上を図る事業	5
○ 無料低額診療実績	
3. 地域住民を対象とした予防措置や治療方法等の普及・啓発の事業実施、各種相談への対応を行うことで、精神科医療への理解促進と地域の福祉向上を図る事業	5
○ へき地医療・離島医療支援実績	
○ 無料メンタルヘルス相談会及びリワークプログラム実績	
○ 法人主催定期講演会	
○ 精神科領域等の講師派遣活動	
○ 地域支援活動等	
4. 精神科医療の担い手確保を視野においた、医療従事者の養成及び再教育を図る事業	8
○ 鹿児島看護専門学校 入学者実績（1学年定員40名）	
○ 在校生	
○ 法人奨学金制度実績	
○ 鹿児島看護専門学校主催公開無料講座	
○ 地域医療従事者養成機関各種実習受け入れ	
○ 臨床研修病院（協力型研修病院）研修受け入れ 公益社団法人鹿児島共済会南風病院	
5. 法人事業運営	9
○ 定時社員総会	
○ 定例理事会	
○ 臨時理事会	

- 常任理事会・幹部会議
- 法人主催行事

6. 中期経営計画の積極的推進	12
○ 本館建て替え事業の推進（メンタルホスピタル鹿児島）	
○ 石谷地区における法人所有地について	
○ 鹿児島看護専門学校閉校に向けての手続き	
7. 職員の資質と意欲の向上を目指し、安心して働ける職場環境の整備	16
○ 人事考課制度及び新たな給与制度の運用	
○ 新型コロナウイルス感染症対策	
<事業報告書附属明細書>職種別職員人数表（令和3年3月31日現在）	17

令和2年度 事業報告  
(令和2年4月1日～令和3年3月31日)

I. 事業概況

令和元年に国内で生まれた日本人の子どものが数が86万4000人と、統計開始以来、初めて90万人を割り込む見通しとなりました。これから、人口減少、少子高齢化がますます加速していきます。年間人口減少数は約43万人で、これは日本の人口の少ない県と同じ数ということから考えると、いかに深刻な問題かが実感されます。今後人材確保だけではなく、人材育成にも力を入れていくことが求められています。このような人材不足や働き方改革への対応が迫られる中、年次有給休暇の取得率を上げることはもちろん、タスクシフティングを有効に活用し、仕事の負担を減らすことが重要です。

地域医療構想に関しては、その地域の実情に合った計画を立てて、多くの機関と協力して実現を目指すことが必要ですが、その際、他科医療機関や施設などとの密な連携は必須であり、その地域での役割を明確にすることが大切です。

また、IR推進法（統合型リゾート整備推進法案）の成立により、ギャンブル依存症の増加が心配されていますが、その他のアルコール依存症やスマホ依存症なども含め、その相談、治療拠点はあるものの、実効性に関しては現時点でははっきりしていません。今後、本人の“意志の問題”としてではなく“依存症”という病気として相談、治療が行える病院を整備していくことが求められています。

さらに、当法人の喫緊の課題であるメンタルホスピタル鹿兒島新病棟建設に関しては、5年後の完成を目指し、「病院の機能」「建物」「財務」のバランスを考え計画を立て、着実に進めていきます。医療や福祉の環境の変化が激しい今の時代に対応するために、また経費削減のためにも、医療コンサルタントやCM（Construction Management）方式などを導入し、30～50年先を見据えて、予算や借入先も慎重に検討していく必要があります。

依然と猛威を振るう新型コロナウイルス感染症は、未だ終息の光が見えず、医療界のみならず全ての分野において深刻な影響を及ぼし、これまでの計画の見直しを迫られています。今後も、同様のことが起こることを前提に、感染症を含め、あらゆる自然災害や事故などを想定したBCP（事業継続計画）を策定し、事業が継続できるように準備しておく必要があります。まだまだ新型コロナウイルス感染症の収束は見通せませんが、あらゆる対策を講じてこれからも公益法人としての理念を忘れずに、地域社会から求められる医療機関として、その使命、役割を果たしていきたいと思えます。

このような様々なことに柔軟にかつ迅速に対応できるように、令和2年度も、職員一人一人が医療従事者としての自覚を持って努力し、精神障害者に対する急性期医療を行ってまいりました。さらに、安全で快適な療養環境の確保を中心とした医療の提供及び社会復帰のための各種支援を行うなど、慢性期医療にも尽力いたしました。これらを通して、公衆衛生の向上を図り、地域社会の健全な発展に寄与するために、事業計画に基づいた事業運営を行ってまいりました。

## II. 事業実績

1. 精神障害者に対して、救急・急性期治療等の医療を提供するとともに、リハビリテーションの実施をはじめとする各種社会復帰のための支援を行うことで、公衆衛生の向上を図る事業

(1) メンタルホスピタル鹿児島・メンタルホスピタル鹿屋 診療等実績

○ 診療実績 メンタルホスピタル鹿児島 (450床 令和2年4月～令和3年3月)

月単位	精神一般病棟 352床		精神科急性期 治療病棟 48床		認知症治療病棟 50床		外来 患者数
	平均 入院 患者数	病床 稼働率	平均 入院 患者数	病床 稼働率	平均 入院 患者数	病床 稼働率	
R2.4	345.2	98.1	43.3	90.1	45.9	91.8	1,774
R2.5	343.4	97.6	40.6	84.5	44.8	89.6	1,615
R2.6	339.2	96.4	45.3	94.3	47.7	95.4	1,760
R2.7	337.1	95.8	41.9	87.3	47.5	95.0	1,770
R2.8	336.7	95.7	37.8	78.7	45.7	91.3	1,684
R2.9	335.4	95.3	41.1	85.7	47.1	94.3	1,740
R2.10	338.2	96.1	42.9	89.4	46.9	93.9	1,997
R2.11	335.5	95.3	42.9	89.4	45.7	91.5	1,771
R2.12	329.7	93.7	42.0	87.4	42.8	85.6	1,847
R3.1	330.5	93.9	40.9	85.2	43.1	86.3	1,683
R3.2	333.8	94.8	41.7	86.9	45.7	91.4	1,721
R3.3	337.1	95.8	41.0	85.3	45.3	90.6	2,098
合計							21,460
平均	336.8	95.7	41.7	87.0	45.6	91.3	1788.3
前年比		+0.2		+7.9	+3.7	+7.6	+115.5

※精神一般病棟は令和2年1月より352床、精神科急性期病棟は令和元年9月より48床につき、平均入院患者数についての対前年比は省略

※発熱外来については、実績なし

○ 診療実績 メンタルホスピタル鹿屋 (230床 令和2年4月～令和3年3月)

月単位	精神一般病棟 230床		内 認知症疾患 医療センター 関連入院数	外来 患者数	内 認知症疾患 医療センター 関連外来数	内 発熱外来数
	平均 入院 患者数	病床 稼働率				
R2.4	199.0	86.5	21	1,744	201	
R2.5	203.0	88.3	7	1,548	181	
R2.6	208.2	90.5	9	1,716	197	
R2.7	209.6	91.1	6	1,450	194	
R2.8	211.1	91.8	10	1,626	219	
R2.9	206.0	89.6	8	1,697	201	
R2.10	205.8	89.5	7	1,859	225	
R2.11	208.4	90.6	5	1,652	215	1
R2.12	207.4	90.2	7	1,759	206	1
R3.1	200.3	87.1	3	1,312	185	4
R3.2	199.9	86.9	8	1,455	202	19
R3.3	201.0	87.4	3	1,831	210	2
合計			94	19,649	2,436	27
平均	205.0	89.1	7.8	1,637.4	203.0	4.5
前年比	-1.0	-0.5	-1.6	+28.6	+4.7	

○ 精神科領域診療業務受託実績

メンタルホスピタル鹿児島 (前年比)		
診療業務委託元	年間診療回数	診療患者延数
米盛病院	47回 (-5)	214人 (-172)

○ 患者サポートの充実を目的とする各種相談実績

メンタルホスピタル鹿児島 (前年比)	メンタルホスピタル鹿屋 (前年比)
相談件数	相談件数
8,524件 (+2,510)	4,477件 (-377)

○ 鹿児島県精神科救急システム当番病院実績

メンタルホスピタル鹿児島 (前年比)		メンタルホスピタル鹿屋 (前年比)	
当番回数	対応件数	当番回数	対応件数
5回 (-1)	9件 (-7)	11回 (+3)	25件 (+18)

○ 鹿児島県精神科医療電話相談窓口実績

メンタルホスピタル鹿児島（前年比）		メンタルホスピタル鹿屋（前年比）	
当番回数	対応件数	当番回数	対応件数
10回（-1）	8件（-11）	7回（-3）	12件（-5）

○ 精神科地域移行実施加算による退院者実績

（令和2年1月～令和2年12月）

メンタルホスピタル鹿児島	
5年超入院者	退院者実績
155名	10名

※入院者の5%以上の退院実績にて算定可能

○ 精神科訪問看護実績

メンタルホスピタル鹿児島（前年比）	メンタルホスピタル鹿屋（前年比）
訪問件数	訪問件数
2,338件（+270）	2,275件（-190）

(2) 精神障害者に対する障害福祉サービス事業の実施

○ 共同生活援助実績

メンタルホスピタル鹿児島（前年比）	メンタルホスピタル鹿屋（前年比）
グループホームアミカ・ホープ （24床）	グループホーム集 （4床）
利用者延数	利用者延数
7,994人（+75）	730人（-2）

○ 就労継続支援事業実績

メンタルホスピタル鹿児島（前年比）
就労継続支援事業所B型えい吉
利用者延数
1,226人（+344）



(3) 精神科リハビリテーション・作業療法の実施

○ リハビリテーション実績

メンタルホスピタル鹿児島（前年比）				メンタルホスピタル 鹿屋（前年比）
作業療法	理学療法	言語療法	認知症 リハビリテーション	作業療法
年間実施延数	年間実施延数	年間実施延数	年間実施延数	年間実施延数
50,008人 (+3,835)	2,432人 (+117)	1,067人 (+611)	4,798人 (+2,218)	30,202人 (+2,001)

(4) 退院後の社会生活機能回復を目的とする精神障害者デイケア事業等の実施

○ デイケア・デイナイトケア等実績

メンタルホスピタル鹿児島（前年比）				メンタルホスピタル 鹿屋（前年比）
デイケア	デイナイトケア	ショートケア	ナイトケア	デイケア
利用者延数	利用者延数	利用者延数	利用者延数	利用者延数
5,467人 (+1,276)	2,189人 (+292)	825人 (+307)	99人	4,513人 (-508)

2. 生活困窮者に対して、無料又は低額な診療を提供することで、公衆衛生の向上を図る事業（メンタルホスピタル鹿児島・メンタルホスピタル鹿屋）

○ 無料低額診療実績

メンタルホスピタル鹿児島（前年比）	メンタルホスピタル鹿屋（前年比）
利用者延数	利用者延数
92人 (+63)	0人 (-166)

3. 地域住民を対象とした予防措置や治療方法等の普及・啓発の事業実施、各種相談への対応を行なうことで、精神科医療への理解促進と地域の福祉向上を図る事業

（メンタルホスピタル鹿児島・メンタルホスピタル鹿屋）

(1) 精神科無医地区における無料巡回相談及び巡回診療の実施

○ へき地医療・離島医療支援実績

メンタルホスピタル鹿児島（前年比）		
診療支援先	支援回数	診療患者総数
薩摩川内市下甕手打診療所	5回 (-5)	13人 (-20)

(2) 職場におけるメンタルヘルス及び職場復帰支援

○ 無料メンタルヘルス相談会及びリワークプログラム実績

メンタルホスピタル鹿児島（前年比）		
無料メンタルヘルス相談延数	リワークプログラム	
31 件（±0）	開所回数	利用者数
	243 回（+58）	1238 名（+952）

(3) 法人主催講演会の開催

開催日	開催場所	講演会内容
令和 2 年 12 月 12 日	メンタルホスピタル 鹿児島 メンタルホスピタル 鹿屋（ネット中継）	「新型コロナウイルス感染症のリスクと予防」 講師 西 順一郎 氏 （鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 微生物学分野 教授） 参加人数 200 名

(4) 行政機関等他団体主催講演会等への職員派遣

○ 精神科領域等の講師派遣活動

事業所名	職員氏名	派遣日	派遣先	研修会名
メンタルホスピタル 鹿児島	佐藤 大輔	令和 2 年 11 月 5 日	オンライン講演会 in Kagoshima	ヤンセンファーマ（株） 座長
	佐藤 大輔	令和 3 年 1 月 27 日	鹿児島市与次郎	Meigi Seika ファルマ （株）社内勉強会講師 内容：統合失調症におけ る診断と治療
	竹ノ内 瞳	令和 2 年 10 月 1 日	鹿児島大学大学院 臨床心理学研究科	「医療領域で働く臨床心 理士として大切にしてい ること」
	谷川 加奈子	令和 2 年 10 月 22 日	志学館大学大学院 心理臨床学研究科	「医療領域で働く公認心 理師として大切にしてい ること」
	中村 美香	令和 2 年 12 月 7 日	志学館大学 人間関係学部 心理臨床学科	「病院臨床における心理 師の役割について」
	上松 久美子	令和 2 年 4 月～ 令和 3 年 3 月	鹿児島医療センター 付属看護学校	精神看護学方法論Ⅰ・Ⅱ
	大田 真司		鹿児島医療福祉専門	

			学校看護学科	
	松永 絹子	令和2年6月5日	鹿児島看護専門学校	在宅看護地域包括ケアシステム等について
		令和2年9月3日	鹿児島国際大学福祉社会学部社会福祉学科	精神保健医療福祉における保健師の役割
		令和3年2月19日 令和3年2月26日 令和3年3月5日	川内市医師会立看護専門学校	精神看護学方法論Ⅱ
	米満 裕之	令和2年6月～9月	鹿児島看護専門学校	リハビリテーション看護
		令和3年3月20日	神村学園専修学校 (ZOOM)	臨床実習指導者会議
	前村 英葵	令和3年3月13日	鹿児島医療技術専門学校 (ZOOM)	
	中山 彩子	令和3年3月27日	熊本駅前看護リハビリテーション学院 (ZOOM)	
	福永 康孝 道添 歌織 神野 志織	令和2年8月28日	鹿児島国際大学	精神保健福祉士援助実習講義
	福永 康孝	令和3年3月12日	西南女学院大学	
早川 幸人	令和2年5月12日	易居町公民館	一般市民に対する精神科病院の紹介	
メンタルホスピタル 鹿屋	江藤 一馬	令和2年11月25日	鹿児島県庁	措置入院者の退院後支援従事者研修
	林田 里恵	令和2年6月3日	有明中学校	ゲートキーパー養成講座
		令和2年10月6日	松山中学校	
		令和2年10月19日	志布志中学校	
		令和2年11月25日	宇都中学校	
		令和2年12月10日	伊崎田中学校	
	令和3年2月5日	志布志市いじめ問題対策連絡協議会	子どもの自殺予防とその対応	

○ 地域支援活動等

事業所名	職員氏名	地域支援活動等
メンタルホスピタル 鹿児島	佐藤 大輔	鹿児島市医師会 理事
		鹿児島市精神保健嘱託医
		鹿児島市嘱託医
		鹿児島市保護第一課 鹿児島市生活保護嘱託医

		鹿児島県精神保健福祉協議会 鹿児島県精神医療審査会委員
		鹿児島県立始良病院 医療観察法病棟倫理会議委員
		被害者支援ネットワーク西 会員
	松原 康久	被害者支援ネットワーク西 幹事
	福永 康孝	鹿児島県精神保健福祉士協会 理事
		城西地区地域ケア推進会議 委員
		鹿児島県 DPAT 運営運営員会委員 (精神保健福祉士協会)
		鹿児島県立始良病院 医療観察法病棟倫理委員会構成員
		鹿児島市介護予防地域ケア会議助言者
	越智 裕之	鹿児島市令和2年度長期入院精神障害者の地域移行推進事業 病院相談窓口担当者
		令和2年度厚生労働科学研究費補助金障害者政策総合研究事業 『ピアサポーター研修のための講師・ファシリテーター研修会』 鹿児島会場担当窓口
		鹿児島ピアサポーターの集い
	早川 幸人	鹿児島市介護予防地域ケア会議助言者
道添 歌織	鹿児島県精神保健福祉士協会 災害対策委員	
	鹿児島ピアサポーターの集い	
小山 恵里		
竹ノ内 瞳	鹿児島県臨床心理士会会長	
上松 久美子	日本精神科看護協会 鹿児島支部 教育委員長	
メンタルホスピタル 鹿屋	小林 憲史	介護保険審査会
		大隅地域振興局 精神保健福祉相談医
	佐藤 壮司	介護保険審査会
	福原 香織	介護保険審査会
	二宮 理	鹿屋市看護専門学校
	江藤 一馬	鹿屋市看護専門学校

#### 4. 精神科医療の担い手確保を視野においた医療従事者の養成及び再教育を図る事業

(鹿児島看護専門学校・メンタルホスピタル鹿児島・メンタルホスピタル鹿屋)

(1) 地域の精神科医療を担う看護師養成学校として独自の教育課程を実施する看護専門学校の設置・運営

○ 鹿児島看護専門学校 入学者実績 (1学年定員40名) (前年比)

応募者数	受験者数	合格者数	入学者数
59名 (-4)	55名 (-6)	50名 (+3)	38名 (+6)

○ 在校生（令和3年3月末日現在）（前年比）

1年生	2年生	3年生	合計
37名	29名	36名	102名（-6）

(2) 希望者全員を対象とした奨学金貸与制度の実施

○ 法人奨学金制度実績（前年比）

1年生	2年生	3年生	合計
8名	6名	9名	23名（-10）

(3) 鹿児島看護専門学校主催公開無料講座

開催日	開催場所	講座内容
令和3年2月26日	メンタルホスピタル 鹿児島 新館多目的ホール	演題：仕事にも人間関係にも役立つ「アンガーマネジメント」 講師：田之頭 智子氏 ・日本アンガーマネジメント協会シニアファシリテーター ・国際コーチ連盟アソシエイト認定コーチ

(4) 地域医療従事者養成機関各種実習受け入れ

※新型コロナウイルス感染症の影響により、実習受け入れ実績なし

(5) 臨床研修病院（協力型研修病院）研修受け入れ 公益社団法人鹿児島共済会南風病院

メンタルホスピタル鹿児島（前年比）
受入研修医数
1名（±0）

5. 法人事業運営

(1) 定時社員総会

① 令和2年6月20日（土）

【報告事項】

- ① 令和元年度 事業報告
- ② 社員の退社について

【決議事項】

第1号議案 令和元年度 計算書類等の承認について

## (2) 定例理事会

### ① 令和2年6月5日(金)

#### 【決議事項】

- 第1号議案 令和元年度 事業報告・決算書類承認について  
監事監査報告
- 第2号議案 定時社員総会(令和2年6月20日)の開催について
- 第3号議案 鹿児島看護専門学校 学則一部変更について
- 第4号議案 契約案件

#### 【報告事項】

- ① メンタルホスピタル鹿児島本館建て替えに係る進捗状況について
- ② 職務執行状況報告(令和2年3月以降)
- ③ 社員の退社について

### ② 令和3年3月26日(金)

#### 【報告事項】

- ① メンタルホスピタル鹿児島本館建て替えに係る進捗状況について  
(令和2年7月～令和3年3月)
  - ・経過報告
  - ・基本構想、基本計画

#### 【決議事項】

- 第1号議案 令和3年度 事業計画案・収支予算案について
- 第2号議案 定款変更について
- 第3号議案 規則・規程の改正について
  - ①理事会運営規則の改正
  - ②常任理事職務権限規程の改正
  - ③職員給与規程の改正
  - ④メンタルホスピタル鹿児島職務権限規程の改正
- 第4号議案 契約案件について

#### 【報告事項】

- ② 職務執行状況報告(令和2年5月以降)
- ③ 人事案件(令和2年5月以降)

## (3) 臨時理事会

### ① 令和2年9月25日(金)

#### 【みなし決議事項】

- 第1号議案 鹿児島看護専門学校の課題と今後の方向性について

#### (4) 常任理事会・幹部会議

① 令和2年4月23日(木)

(議題)

- ・令和2年度職員給料の昇給について

(報告事項)

- ・医師オンコール手当について

② 令和2年5月28日(木)

(議題)

- ・令和2年6月5日定例理事会に付議する事項の協議
- ・令和2年7月賞与支給について

③ 令和2年9月11日(金)

(議題)

- ・令和2年9月25日臨時理事会に付議する事項の協議  
「鹿児島看護専門学校の課題と今後の方向性について」

④ 令和2年11月19日(木)

(議題)

- ・令和2年度冬季賞与支給について
- ・令和3年度事業計画・収支予算スケジュールについて

(報告事項)

- ・メンタルホスピタル鹿児島「特定相談支援事業所」新設について
- ・定期講演会、合同学会について

⑤ 令和3年1月28日(木)

(議題)

- ・令和3年度予算設備投資計画について
- ・特殊勤務手当の創設について(新型コロナウイルス感染症業務従事手当)
- ・講師謝礼金及び旅費等の支給に関する規程について

(報告事項)

- ・石谷地区における所有地について

⑥ 令和3年3月19日(木)

(議題)

- ・令和3年3月26日定例理事会に付議する事項の協議 他

○ 法人主催行事

① 定期講演会・合同学会

開催日：令和2年12月12日（土）

<定期講演会>

講師：鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 微生物学分野 教授 西 順一郎 氏

演題：新型コロナウイルス感染症のリスクと予防

会場：メンタルホスピタル鹿児島

メンタルホスピタル鹿屋（ネット中継） 計 200名 参加

<合同学会>

会場：メンタルホスピタル鹿児島

メンタルホスピタル鹿屋（ネット中継） 計 190名 参加

## 6. 中期経営計画の積極的推進

○ 本館建て替え事業の推進（メンタルホスピタル鹿児島）

【基本構想・基本計画策定に向けての取り組み】

(1) 基本構想・基本計画策定に向けて、事業面での検討を行うため医療コンサルタント（株）メディヴァに、また、施設整備面での検討を行うためCM事業者である（株）プラスPMにそれぞれ策定支援業務を委託した。

(2) 委託後、両事業者とメンタルホスピタル鹿児島の三者で令和2年7月の戦略ディスカッションを始めに三社合同の報告会を5回、その他個別の打ち合わせを14回、院内の個別会議を19回実施し、各面から協議の結果、令和3年3月に事業面及び施設整備面における「新病院等整備基本構想・基本計画報告書」がそれぞれの事業者から提出された。

【基本構想・基本計画報告書の概要】

(1) 事業面（（株）メディヴァ）

① 事業戦略

まず、現在の経営体力から考えられる投資可能概算額及び工事実績に基づく想定事業費概算を算出した結果、事業費抑制の観点から、現在使用していない旧5病棟等の既存建物を有効活用する検討の必要性が示唆された。

また、精神科入院患者の地域移行推進及び高齢化による長期入院患者の減少等を考慮し、精神一般病床をダウンサイジングする方針で検討を進めた。

さらに、現状分析及びSWOT分析を行い、病床数のダウンサイジングと同時に新たな増収策としてキャッシュフローを確保するため、様々な観点から事業戦略を検討した。

② 基本計画

事業戦略について検討協議を行い、最終的に事業面の基本計画について次の通り決定した。



#### ■病棟機能構成

	整備前	整備後	増減
精神一般 15 対 1	352 床	199 床	▲153 床
急性期治療病棟	48 床	48 床	±0 床
認知症治療病棟	50 床	100 床	+50 床
特殊疾患病棟（加算）	0 床	52 床	+52 床
合計	450 床	399 床	▲51 床

#### ■病床数

精神一般 15 対 1 病棟において計 102 床分を下記入院部門のとおり機能転換する。又、今後の長期入院患者の自然減も考慮し、51 床分ダウンサイジングし、全体として許可病床数を 450 床から 399 床に減らす。

#### ■入院部門

将来の地域における認知症患者の需要増に応えるため、認知症治療病棟を新たに 50 床分増床する。又、特殊疾患入院施設管理加算病棟 52 床を新設し、精神一般 15 対 1 病棟から対象患者を転棟する。急性期治療病棟の運営は継続し、将来的に精神科救急病棟への転換にも対応できるよう準備を行う。

更に、精神一般 15 対 1 については、短期に安心して利用していただくためのストレスケア 10 室を含む開放病棟 34 床と慢性期病棟 165 床に分けることにより、全体としても機能分化の推進を強化していく。

#### ■外来部門

退院後の在宅での患者に対する継続的なフォロー等、受け入れ体制の整備を行い、外来機能の強化を図る。

#### ■アウトリーチ機能

将来の認知症患者における地域ニーズに応え、県内でも実施施設が少ない重度認知症デイケアを実施することにより、認知症治療病棟との相乗効果を発揮する。また、地域移行の推進及び退院後の患者のフォローとして、訪問看護にも注力する。

#### ■福祉関連機能

障害者の自立した日常生活を支援するため、障害福祉サービスに係る計画作成等を行う特定相談支援事業所を新設する。また、グループホームについては、長期入院患者等の更なる退院促進のための住まいの確保等の観点から引き続き検討する。

### ③ 収支計画

計画最終年度において、法人全体で新規借入と既存債務の返済に必要な資金を一定額上回り、

メンタルホスピタル鹿児島単体でも新規借入と既存債務を完済した上で、更に運転資金として十分な現預金が保有されるという試算結果となり、事業計画として資金計画に問題はなく、必要運転資金は十分に確保される見通しが立った。

なお、建設事業費については（株）プラス PM による概算コスト試算の上限額を採用した。

## (2) 施設整備面（（株）プラス PM）

### ① 基本方針

事業戦略の検討と並行し、施設整備の方針を検討した。施設整備の基本方針として、慢性期病棟の機能を単に更新するのではなく、社会の変化に応じた経営の見直し、退院後の通院等の利便性向上を考慮し、既存建物との一体的な整備計画により、病院機能の最適化を図ることを目的とした。

また、病床数のダウンサイジング及び事業費抑制の観点から、医療施設近代化施設整備補助金を活用する方針で検討を進めた。

さらに、本計画は現地建替え工事（ローリング計画）となるため、行政機関と協議しながら整備中の病床数減少を極力抑えることに留意し、各既存建物の改修や病棟移転を検討した。

### ② 既存建物との一体的な整備計画

※以下、新築する病棟を A 棟、既存の新館建物を B 棟とする。

公道を挟んだ現在の敷地で、精神科急性期医療をはじめとする地域に根ざした総合的な精神科医療を提供するためには、どのように新棟及び既存建物を一体化して一つの病院とすればよいか検討を行った。結果、救急患者の受入等を含む外来から入院までの動線・利便性や、敷地面積による機能別病床規模を考慮し、全体的最適化の向上を図るためには、A 棟を外来機能及び精神科急性期治療病棟、認知症治療病棟を中心とした病棟、B 棟を慢性期中心とした病棟に改修することが最適との見解に至った。

### ③ 基本計画

上記の基本方針に基づき、各建物の機能構成を検討した結果、施設整備面の基本計画を下記のとおり決定した。

#### ■A 棟

既存の管理棟及び慢性期病棟を解体した敷地に A 棟を新築する。また、機能構成として、外来機能及び急性期病棟、認知症治療病棟、ストレスケア個室含む精神一般病棟（開放）の 182 床を確保する。

なお、B 棟の外来機能及び急性期・認知症治療病棟は A 棟に移転統合する。

また、駐車場 100 台（職員用 60 台・一般用 40 台）分を確保する。

#### ■B 棟

B 棟の 2 階から 4 階を改修整備し、精神一般病棟（慢性期）165 床を確保する。また、1 階

多目的ホールはリハビリ室及びデイケア室に改修する。なお、公道を挟んだ A 棟と B 棟は空中廊下で接続し、運用動線の効率化を図る。

■旧 5 病棟

旧 5 病棟の 2 階から 4 階を改修整備し、特殊疾患入院施設管理加算病棟 52 床を確保する。

■院内託児所建物

院内託児所建物を増築改修し、重度認知症患者デイケアを実施する環境を確保する。なお、院内託児所は B 棟に機能移転する。

④ 基本構想・基本計画策定スケジュールの変更について

令和 2 年 12 月、上記の施設整備計画について鹿児島県と事前協議を行った。結果、医療施設耐震化整備費補助金（以下、耐震化補助金）の交付を受けて建設された B 棟を改修する場合、耐震化補助金の返還義務が発生する可能性を指摘され、鹿児島県を通じて厚生労働省の確認をとる必要が生じた。よって、回答期間を想定して、当初令和 2 年 12 月に予定していた基本構想・基本計画策定完了を令和 3 年 3 月に変更した。

厚生労働省より令和 3 年 2 月、B 棟改修による耐震化補助金の返還は不要との回答を受けた。これを受け、B 棟の改修を含む本計画を予定通り進めることに決定し、基本構想・基本計画を取り纏めることとした。

(3) 今後の工程について

基本構想・基本計画策定完了後、令和 3 年 4 月から設計要件の設定及び設計者選定段階へ移行する。設計者の決定は 7 月中旬を予定している。

(4) 本館建て替えに伴う借地の所有者（内田未来氏 旧姓：横山）の承諾について

現在、本館敷地の一部（608.13 m<sup>2</sup>）を病院敷地として平成 7 年 7 月 7 日から賃借しているが、この土地の契約期間満了日は令和 7 年 7 月 6 日となっている。

この契約期間満了日までに、当法人が満了日を超えて存続する建物を再建築する場合は、所有者の承諾が必要であることから、令和 3 年 1 月 13 日付けで承諾を頂いた。

なお、承諾料として金 3,029,000 円（近隣基準地価×敷地面積×3%）を支払った。

○ 石谷地区における法人所有地について

石谷地区における法人所有地について、令和 3 年 2 月 2 日付けで有限会社楠陽不動産との間で専任媒介契約を交わし、売却先についての検討を行っている。

・土地面積（公簿）・・・55,910.03 m<sup>2</sup>（16,942.4 坪）

※ 開発許可区域 22,639.62 m<sup>2</sup>（6,860.4 坪）

開発外区域（自然緑地）33,270.41 m<sup>2</sup>（10,081.9 坪）

・価格・・・31,000 万円（坪単価：1.83 万円）

※ 土地購入価格の他、造成費用等の諸経費を含む価格

- ・地目・・・宅地、雑種地、山林、原野、公衆用道路、用悪水路
- ・条件・・・現況渡し、一括販売

○ 鹿児島看護専門学校閉校について

- ・定員割れの状況が続いていることや中途退学、留年する生徒の状況、カリキュラム改正に伴う施設整備等による財務状況の悪化等を理由に、令和4年度からの学生募集停止及び令和5年度末をもって閉校とすることの理事会決議・・・令和2年9月25日
- ・鹿児島県への募集中止申出書の届出・・・令和2年12月11日
- ・教職員への説明・・・令和2年12月16日
- ・在校生、保護者への説明・・・令和2年12月25日
- ・鹿児島県内高等学校へのお知らせ（各高校へ文書送付）・・・令和3年2月8日
- ・ホームページへの学生募集停止及び閉校のお知らせについて掲載・・・令和3年2月8日
- ・外部非常勤講師へのお知らせ・・・令和3年2月15日
- ・令和3年度入学生への説明・・・令和3年2月27日

## 7. 職員の資質と意欲の向上を目指し、安心して働ける職場環境の整備

○ 人事考課制度及び新たな給与制度の運用

試行期間中であった人事考課制度について、令和2年10月から本格運用を開始した。

また、給与制度についても、十分に検討を行い、令和3年4月より新たな制度の運用を開始する予定である。

今後も、職員の資質と意欲の向上を目指し、安心して働ける職場環境の整備に取り組む予定である。

○ 新型コロナウイルス感染症対策

- ・病院入口への自動検温器の設置
- ・入院患者への面会制限等
  - メンタルホスピタル鹿児島・・・原則面会禁止（窓越しでの面会、リモート面会可能）
  - メンタルホスピタル鹿屋・・・代表者のみ面会可能（一部病棟にてリモート面会可能）
- ・受付カウンター、会議室等への飛沫防止シートの設置
- ・出勤時の検温・体調チェック等、自己の体調管理の徹底
- ・発熱外来診療の開始
  - メンタルホスピタル鹿児島・・・毎週月～金曜日
  - メンタルホスピタル鹿屋・・・毎週木・金曜日
- ・特殊勤務手当（新型コロナウイルス感染症業務従事手当）の創設
- ・新型コロナウイルス感染症対策に係る各種助成金の有効活用

<事業報告書附属明細書>○職種別職員人数表（令和3年3月31日現在）

職種	MH鹿児島		MH鹿屋		鹿児島看護専門学校		法人統括本部		合計	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
医師	13	18	4	4	0	0	0	0	17	22
薬剤師	3	4	2	0	0	0	0	0	5	4
看護師	118	10	63	3	0	0	0	0	181	13
准看護師	32	10	32	0	0	0	0	0	64	10
介護福祉士	20	1	6	0	0	0	0	0	26	1
診療放射線技師	1	1	1	0	0	0	0	0	2	1
臨床検査技師	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0
臨床心理士・公認心理師	5	0	1	1	0	0	0	0	6	1
作業療法士	18	1	10	0	0	0	0	0	28	1
理学療法士	2	0	0	0	0	0	0	0	2	0
言語聴覚士	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0
精神保健福祉士	22	0	5	0	0	0	0	0	27	0
管理栄養士	3	0	4	0	0	0	0	0	7	0
栄養士	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
事務職	23	3	9	1	3	1	8	0	43	5
保育士	4	0	0	0	0	0	0	0	4	0
調理師	0	0	11	1	0	0	0	0	11	1
調理員	0	0	4	0	0	0	0	0	4	0
営繕	5	1	4	2	0	0	0	0	9	3
看護助手	18	4	13	0	0	0	0	0	31	4
薬剤助手	2	0	2	1	0	0	0	0	4	1
作業・デイケア助手	3	3	0	1	0	0	0	0	3	4
検査助手	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2
GH世話人	2	1	1	0	0	0	0	0	3	1
ピアサポーター	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
クリーンスタッフ	3	9	0	0	0	0	0	0	3	9
職業指導員	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0
音楽療法講師	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
教務	0	0	0	0	15	9	0	0	15	9
小計	300	71	172	14	18	10	8	0	498	95
合計	371		186		28		8		593	

※非常勤…非常勤医師・パート職員